

秋田国際交流事業の紹介



みちのくの小京都と呼ばれる「角館」 武家屋敷通りで絢爛に咲き誇る枝垂れ桜

平成19年3月

秋田地域留学生等交流推進会議



目次 CONTENTS

外国人留学生と地域住民による 街おこし企画ワークショップの報告

～満足度の高かった留学生交流事業を顧みる～
秋田大学社会貢献・国際交流室

1

楽しかった「2006あきた国際フェスティバル」

あきた国際交流ネットワーク事務局

3

秋田市姉妹都市フォーラムの紹介

秋田市姉妹都市フォーラム事務局

4

『秋田にほんごの会』小史

秋田にほんごの会事務局

5

国際教養大学における留学生支援への取り組み

～豊かな留学生活であるために～
国際教養大学 学生課学生支援班

6

外国人留学生と地域住民による 街おこし企画ワークショップの報告

～満足度の高かった留学生交流事業を顧みる～

秋田大学社会貢献・国際交流室

秋田地域留学生等交流推進会議主催で、財団法人中島記念国際交流財団助成による留学生地域交流事業を平成18年9月30日～10月1日（1泊2日）、仙北市、大仙市を会場に行いました。

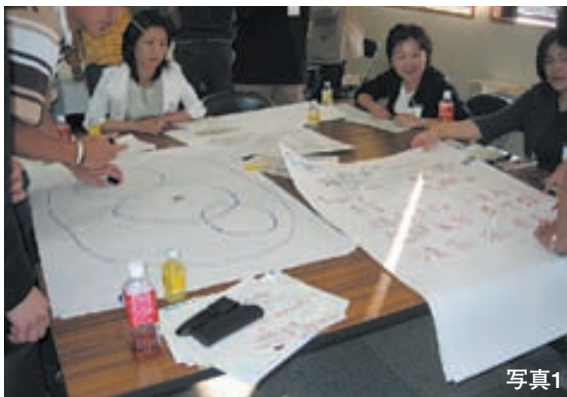
これは、国際交流の推進と地域活性化に力を入れている地方自治体や県内国際交流団体の協力を得て、地域の文化遺産や史跡を視察した後、地域住民と留学生とがグループディスカッションを通じて、地域のこれら財産を活かした街おこしの企画を策定しようとのねらいを実現したものです。

秋田大学国際交流推進機構が中心となり県内の各大学留学生に参加呼びかけを行ったところ、秋田大学7名、国際教養大学8名、秋田県立大学2名、秋田工業高等専門学校から2名、合計19名の留学生と、各大学から日本人学生5名の参加が得られました。また、地元の大仙市教育委員会や仙北市教育委員会さらに秋田県国際交流協会の協力の下、仙北市及び大仙市民10名の参加者を推薦してもらいました。

ワークショップでは街おこしに関連する5課題を設定、留学生と日本人学生を5グループに分けて配し、そこに地元の方々（各グループ2人）と参加大学教職員（5名）がチューターとして加わり、プロダクト作成に向けて議論を沸騰させました（写真1）。どのグループもアイデアに富むまとめができあがり、最後のプレゼンテーションは日本的な発想では決して創作できないような、感心させられるものが発表されました（写真2）。

留学生は日本文化、特に今回は角館の武家屋敷（写真3）に関する理解が深まり、地元の方々もこれまでとは趣を異にした交流ができたものと思います。翌日の田沢湖見学は好天に恵まれ、湖畔からそして遊覧船から田沢湖を満喫しました。続いて檜岡焼き窯元での体験学習は、各人が個性あふれる作品を作り、日本での良い思い出になってくれるものと確信しました（写真5、6）。

これまで秋田地域では他大学の留学生同士が一堂に会して共通の活動をする機会を作らなかったため、今回のワークショップを機に、秋田県での留学生活が意義あるものになることを期待しています。



実施スケジュール(確定版)			
時刻	1日目 平成18年9月30日(木)	時刻	2日目 平成18年10月1日(金)
7:00		7:00	起床
7:30		7:30	朝食(研修室・食堂)
8:00		8:00	10/1バス: 駐車場から田沢湖 高原国民休暇 村経由で乳頭 ロッジへ
8:30	秋田大学(平形キャンパス)に集合 受付・確認	8:30	チェックアウト 乳頭ロッジ発
8:40	借上バス大学発(国際教養大学校)	9:00	
9:00	国際教養大学発	9:30	田沢湖見学(90分)
10:00	角館到着(120分) ・角館町神職工俣承継 (展示及び家屋見学) ・武家屋敷見学	10:00	・湖周周遊 ・遊覧船乗船(10:00~10:40) ・たつこ庵の民謡伝説を聴講
10:30		10:30	
11:00	河原田家~小田野家~ 別荘家~松本家	10:50	角館町方向に移動
11:30	・安藤造元本店(仕込み屋 見学、試食他)	11:30	朝食(研修室・ホール) 朝食の順番が目的
12:00		12:00	
12:10	角館市文化交流センターへ(バス移動)	12:05	朝食場所発
12:30	角館市文化交流センター着(集合)	12:30	福岡崎(大館市界外)に移動
	昼食(参加住民及び留学生等全員)	13:10	福岡崎き宝元到着 家屋見学及びコース体験(120分)
13:00	(第三研修室・別室)	13:30	
13:30	地元住民とのディスカッション ・全体会(13:30~13:40) ・グループディスカッション(90分) (13:40~15:10)	14:00	・家屋見学 ・湯飲み茶碗やぐいすみ作りな どに挑戦
14:30	(第一研修室)	14:30	
15:00	休憩(15:10~15:20)	15:00	福岡崎き宝元発
15:30	まとめ(15:20~15:50)(20分) (第一研修室)	15:30	秋田大学に移動
16:00	プロダクト発表(グループ5/6分) (15:50~16:20) (第一研修室)	16:00	途中で2日目のまとめ (アンケート記入・回収等)
16:30	審査会・表彰式 (16:20~16:50) (第一研修室)	16:30	
17:00	挨拶(16:50~17:00)	16:40	国際教養大学着・発
17:30	休憩(17:00~17:20)	17:00	秋田大学(平形キャンパス)着 解散
18:00	留学生 自国の伝統文化紹介 (17:20~18:20)	17:30	
18:30	参加者全員での夕食 懇親会 (18:20~19:00)	18:00	
19:00	※参加住民の方からアンケート (第三研修室・別室)	18:30	
19:30	留学生・日本人学生・協力教員 乳頭ロッジに移動	19:00	
19:50	乳頭ロッジ到着、チェックイン 入浴	19:30	
20:00		20:00	19:30バス: 乳頭 ロッジから田沢 湖高原国民休暇 村経由で駐 車場へ
20:30		20:30	
21:00	交流時間(60分)	21:00	
21:30	(研修室・食堂)	21:30	
22:00	就寝	22:00	



写真3



写真4

自国の伝統文化紹介のようす

左の実実施スケジュールをご覧ください。

初日はテーマの主核となった「角館」の武家屋敷見学にはじまり、午後はほぼ半日かけて地元住民とのグループディスカッションが繰り返され、最後に審査会・表彰式を行いました。

寄せられた留学生のアンケートからは少し忙し過ぎるように感じたとの意見もありましたが、他大学と交流する機会がない中で留学生同士が意見交換をしたり、普段の生活について情報交換ができたのでたいへん良かったなど、満足度の高い評価をたくさんいただきました。

来年度は、県北の名所旧跡を対象に実施予定ですので、留学生の皆さんは募集時期がきたら見逃すことのないように気を付けましょう。



写真5



写真6

楽しかった「2006あきた国際フェスティバル」

あきた国際交流ネットワーク事務局 渡辺 知

「あきた国際交流ネットワーク」は、秋田県内で国際理解と国際交流を進める活動や団体を支援する組織です。



「あきた国際フェスティバル」は、ネットワークが毎年開催している一大イベントです。

40以上のブースが一同に集い、それぞれの活動を楽しく紹介します。

2006年11月12日、秋田拠点センター・アルヴェを会場に、民族衣装鮮やかな外国人ブースが多数参

加しフェスティバルが開催されました。

ステージ上では、音楽演奏や芸能のパフォーマンスが会場を大いに盛り上げ、参

加者には、スタンプラリー抽選会でお食事券などたくさんの賞品が当たる特典もありました。

2階の多目的ホールでは、フェスティバルのお祭りの華やかさとは彩を変えたプログラムがありました。「山形国際ドキュメンタリー映



画際2005」の受賞作品の上映と秋田市出身の探検家・高橋大輔氏の講演会で、昨年の形式とは違う試みでした。

静かにシリアスなドキュメンタリー映画が上映され、刺激的でワクワクする“夢を追い続ける探検家”の講演が200人余りの参加者を迎え行われました。



ドキュメンタリーは、なかなか辛らつで心に強く突き刺さり、シナリオのない生の事実の映像が観ている者に背中を向けることを許しません。地球上のいたる所で起こる凄惨な

事実を伝える映像には“力”がありました。生きることの証を突きつける“ノンフィクションのリアリティー”がそこにあったのです。

『地球に出かけよう!』と題した講演では、まったくバリアのない“白い地球地図”を持って「物語を旅する男のロマン」が心地よく感動を与えてくれました。それは、昔話の逸話が夢物語ではなく、不思議な出来事として地球上に存在する



“未知のドキュメンタリー”で、新鮮で刺激的なその「高橋ワールド」は、会場の私たちを感動させてくれたのでした。

秋田市姉妹都市フォーラムの紹介

秋田市姉妹都市フォーラム事務局 河 又

「秋田市姉妹都市フォーラム」は秋田市が2002年1月に設立した団体で、友好姉妹都市との交流を中心に、市民の国際交流を促進してきました。もう少し市民の目線で、市民主体の交流を進めようと、2006年4月に新しいフォーラムとして再スタートを切り、やっと1年が経過しようとしています。友好姉妹都市との交流にゆかりのある市民が集まった団体で、事業の企画、運営を初めて経験するような会員ばかりです。しかし、情報誌（ウキパラSt.）を出したり、あきた国際フェスティバルに参加したりする中で、少しずつ手応えを感じるようになってきました。

秋田市姉妹都市フォーラムは、姉妹都市をうたっていますが、交流のきっかけとして、姉妹都市があるのであり、それだけに限定した活動を目指しているわけではありません。このような冊子で紹介していただくという機会を頂きましたので、これを機に留学生の皆さんとお近づきになれたらと思っています。

私たちは、留学生の皆さんが、世界中に色々な国がある中で、日本を選んでくれたこと、そして日本の中で、東京でも仙台でもなく秋田を選んでくれたことを大変うれしく感じています。そんな皆さんを暖かく歓待したいという気持ちをもっている人たちは大勢いると思いますが、なかなか接点がないような気がします。そんな接点になれるような活動ができたらと思っています。今後、色々なイベントを企画していきたいと考えていますので、その時は、ぜひ参加してください。

最後に、簡単に秋田市の姉妹都市の紹介をしておきましょう。秋田市の姉妹都市は5都市あります。中国の蘭州市、ドイツのパスサウ市、ロシアのウラジオストク市、アメリカのキナイ半島郡（アラスカ州）とセントクラウド市です。最近では蘭州大学から李紹成先生がお越しになり、太極拳講座を開いてくださいましたし、パスサウ市とは姉妹都市提携20周年を迎え、様々な行事が行われました。セントクラウド市とは、旧雄和町の姉妹都市交流を引き継いで、昨年提携を結んだばかりですが、今後、活発に交流していきたいと考えています。ちなみに、秋田市姉妹都市フォーラムの情報誌である「ウキパラSt.」は各姉妹都市の頭の1字をとってつけました（St.はSt. Cloud）。ウキウキしたパラダイスのような、みんなが集まる通り（Street）という願いを込めています。一度、ぜひ読んでみてください。



『秋田にほんごの会』小史

秋田にほんごの会事務局 今野悦子

1993年9月に誕生した『秋田にほんごの会』。今でも時折、「日本語ブーム」の影響か、「日本語について勉強する会ですか」と質問されることがある。もちろん、日本語について勉強する会なのだが、違うところは日本語を母語としない人たちに教えるための日本語なのである。

誕生当時、まだまだ秋田では身近に外国人と接する機会が少なかったせいか、『日本語を母語としない人たちに教える日本語』というのがよくわかってもらえなかった。流暢な英語や中国語で日本語を教えていると思われたようだ。そうではなくて、全く日本語のわからない人にも日本語で教えているのだが。会の誕生から10年以上たって、留学生や日本人の配偶者として秋田で暮らす外国人が徐々に増えてきている。そのせいか、県内でも在住外国人に日本語を教える人を養成する講座が盛んに開かれ、何となく『日本語を母語としない人たちに教える日本語』も理解されるようになってきた。

出来立ての頃は、とにかく色々な知識を得ようと毎月1回学習会を開いたり、大学の留学生会館で留学生に教えたり、地域の在住外国人を対象とした教室を作ったりと活動の幅をどんどん拡大していった。秋田県でも技術研修生を受け入れる際の日本語教育を委託されたり、学齢児童や生徒のために学校現場で日本語を勉強できるようにと行政と話し合い



を重ねたりしたこともあった。県内でも、同じような趣旨の活動団体がいくつか出来ていった。歴史でいうなら、さしずめ勃興期といったところか。

そして、会は13歳と6ヶ月になった。会員はそれぞれが地域の日本語教室で教えたり、小中学校で教えたりしている。今では、会はそんな会員たちが研修したり情報交換したりする場を提供する役目を担っている。最近の研修では、会員だけでなく興味のある人にも

呼びかけて、日高先生を講師に日本語文法のしくみをシリーズで勉強した。そういう意味では、会として経験を積み「日本語について勉強する」という原点に立ち戻った活動をしているこの頃である。会としては成熟期に入ったのではないかと考えている。



国際教養大学における留学生支援への取り組み

～ 豊かな留学生活であるために ～

国際教養大学 学生課学生支援班 班長 小林 和 世

国際教養大学（AIU）は、国際社会に貢献できる人材育成と、国際社会と地域社会に貢献することを目指し、平成16年4月に開学しました。間もなく4年目を迎えます。開学当初から、北米、欧州、アジアを中心に、世界の様々な国・地域の大学と留学提携を結び、留学生の受入、学生の留学派遣、提携校からの交換留学生受入等を活発に行ってきました。平成19年2月現在、AIUの海外提携校は、22か国・地域の大学53校となりました。また、平成18年秋学期には、AIUに在籍する留学生数はキャンパスで学ぶ学生の約2割、海外へ留学中の学生は学生数の約3割を占めました。

様々な国籍や文化を背景に持つ留学生が、慣れない異文化環境で学び生活することはとても大変なことです。そのためAIUでは、学業・生活両面において様々な留学生支援を行っています。

まず第一に、留学生が安心して生活できるよう、住居（基本は学生寮）の提供をしています。入学一年次の日本人学生等は入寮が義務づけられているため、彼らと留学生が共同生活することになります。学生寮は、普段の生活を通してお互いの多様性に会い理解する、異文化交流の場といえます。先輩学生のRA（寮アシスタント）や寮生活委員会が、学生の目線で、寮生の様々な生活支援を行っています。

第二に、個々の学生を大切にする相談対応が挙げられます。入寮・入学時は、新入生や留学生にとって何もかもが戸惑いの連続です。ピアサポーターというボランティアの先輩学生たちが、新生活をアシストします。また、学生一人一人にはアカデミック・アドバイザーがついており、学業・進路についてアドバイスをします。メンタルヘルスのサポートは、カウンセラーや看護師が対応します。通常カウンセリングのほか、カルチャー・ショック、ストレス・マネージメント、リラクゼーション・ヨガなどのワークショップを行い、自助努力対応のノウハウを教えています。奨学金やアルバイト、証明書の発行、登録手続き、病院紹介、通訳等々、一人一人の学生が必要とする情報提供や相談対応は、事務局が応じています。



第三に、充実した学内外の課外活動等の機会提供です。留学生生活がかで有意義なものであるためには、課外活動を通しての経験は欠かせません。そのため、様々な行事を随時紹介し、日本人学生や地域の人々との積極的な交流をするよう勧めています。県内のホストファミリーを週末に訪ねるホームビジットや、毎学期数回行われる秋田発見バスツアーは、キャンパスを離れ秋田を肌で体験する、とても良い機会として、留学生に人気があります。また、英語や多言語で幼稚園児や小中学生と遊ぶ『チャレンジクラブ』、『英語で遊ぼう』や、地域の方々とお互いの食文化を学ぶ『きりたんぼ講習会』、『留学生の国の料理紹介』、祭り・音楽・ダンスなどを通しての伝統文化交流、幼稚園や小中学校訪問、地域の祭りへのボランティア参加など、AIUの留学生は県内各地で行われる学外行事に参加する機会にも恵まれています。夏の秋田竿燈まつりには、開学2年目の一昨年から参加しており、留学生と日本人学生と一緒に練習し、地域の人たちと一緒に祭りを楽しむ姿がとても印象的です。

しかし、こうした素晴らしいイベントにも、留学生の意志を尊重しているため、参加したい学生がサインアップ方式で申し込むこととしています。一人でも多くの学生に有意義な体験をしてもらうために、掲示板やメールを通して何度も情報を通知するなど、工夫をしています。

秋田県は、地方に位置する、自然に恵まれた美しい所です。豊かな文化と伝統、そして暖かな人情は、かけがえない誇りです。縁合ってAIU／秋田／日本を訪れる留学生たちは、その国や地域を代表する大使のようなものです。キャンパス内のみならず、秋田県内各地域で多くの人に出会い、沢山の経験をし、有意義な留学生活を送った学生たちは、きっとAIUや秋田への想いが深く、思い出を楽しく自分の家族や友人に話してくれる事でしょう。そして第二の故郷として、また帰ってきてくれるに違いありません。それは秋田が世界に少し近づく一歩でもあります。留学生の豊かな人生のために、また地域と国際貢献のために、留学生支援はとても大切な役割を担っていると考えます。





あきた留学生交流 第19号(別冊)

(2007.3発行)

編集・発行 秋田地域留学生等交流推進会議事務局
(秋田大学社会貢献・国際交流室)

〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号

TEL(018)889-2856 FAX(018)889-3012

E-mail syakoku@jimu.akita-u.ac.jp